

動物學雜誌 第二十六卷第三百十四號

論說

大正三年十二月十五日發行

1914

1913  
15 1910  
D57 1925

●「オンケア」科 (Fam. Oncaeidae) の修正と該科の

一新屬三新種に就て

札幌農科大學水産學教室 小久保 清 治

本邦の淡水中に Podoples に屬する橈脚類の一屬を産す。之を研究するに、從來の凡ての橈脚類中に全く見ざる特徴を有して、Tribe Isokerandria に屬する Fam. Oncaeidae に最も近き關係を有する一屬なる事を知る。然れ共尙精細に之を檢すれば明かに Oncaeidae にも適合せざる諸點を發見するが故に、該科の性質を修正して此の數種を一新屬と爲し、Limnionoea と名づけ、之を此科に屬せしむる事とせり。本屬の三新種中 Limnionoea gemina は余が明治四十四年五月北海道石狩國札幌郡篠路村に於て採集せる標本中に始めて發見せるものにして、後茨城縣霞浦志戸崎に於て採集せる浮游生物を檢せしに、此中にも亦前者と同一種を發見せり。L. divaricata

L. divaricata は、北海道釧路國釧路郡春採湖の浮游生物中に發見せるものなり。

「リムノオンケア」屬 (Limnionoea n. s.) の分類上の位置

Podoples の Tribe Isokerandria に屬する科 (Family) は Oncaeidae 及 Corycaeidae の二科あり。兩者共其第一觸角 First antenna は geniculate する事なく、第二觸角 Second antenna は發達して其先端は鉤狀を呈し、交接に用ひらる。此の三點に於て二科酷だ相類す。次に記載せんとする「リムノオンケア」屬も亦能く以上に適合する三點を有して、明に Tribe Isokerandria に屬す可きものなるを知る。然

(論 概) 「オンケア」科 Fam. Oncaeidae の修正と該科の一新屬三新種に就て (小久保)

(論 載) 「オンケア」科 Fam. Oncaeidae の修正と該科の新屬三種に就て (小久保)

らば系統上より見て本屬が前二科と如何なる關係を有するやに就て次に少しく論せん。

元來 Oncaeidae と Corycaidae との最も著しき差異は Corycaidae に於ては Cuticular lense ある目を有し Oncaeidae に於ては之を有せざる事、及兩者の體形を異にし且つ其節數を異にする點に在り、此等の點より見れば本屬は Cuticular lense ある目を有せず、又其體節の數及體形は Oncaeidae 中の Gen. Oncaez によく類似して此科中に屬す可きものなるや明かなり。然れ共此二點以外の種々の附屬肢に就て觀察する時は、Corycaidae にも酷似せるを知る。今第一觸角以下の附屬肢に就き以上の二科と本屬との異同を検せんに、第一觸角は Oncaeidae にては四節乃至六節、Corycaidae にては三節乃至六節なり、本屬の諸種は皆四節乃至六節なれば能く Oncaeidae の性質と一致す。唯 Asthetasken を有せざる點に於ては寧ろ Corycaidae に類似すれ共、其太きを見る時は本屬は Corycaidae のもの如く細長ならず、故に第一觸角に於ては本屬は Corycaidae よりも Oncaeidae に近縁を有するものと見る可し。第二觸角は Oncaeidae 中 Oncaez, Lubbockia, Comaen の如きは三節より成れ共其末節の附屬物は本屬の如く鉤状を爲さず、然るに Corycaidae のものにては其形狀本屬のものに類似して末端の附屬物は皆鉤状をなす、加之本屬に於ては第二觸角の基節の末端外側に小刺を有するを見る、之れ即 Corycaeus, Sapphirina

等の第二觸角の基節の末端外側に於て見るものに相當し、明に兩者の近縁なるを示すものなり。上顎 Mandible は本屬にては全く特殊にして以上の二科の何れにも類似せず。下顎 Maxilla は本屬のものは扁平にして小なる事能く Corycaidae 中の諸屬に似たり、其中 Sapphirina のものに酷似し、下顎の構造に於ては Corycaidae に近縁を有す。第一顎脚 First maxilliped は本屬に於ては棒状を爲して一節より成り、兩科の何れにも酷似せず。第二顎脚 Second maxilliped は元來 Oncaeidae と Corycaidae とは能く類似せる故本屬の第二顎脚は兩科の何れに近しと云ふを得ざれ共、其類似せるものを二科の中に求むれば Oncaeidae 中には Lubbockia, Comaen 等にて、Corycaidae 中には Corycaeus, Sapphirina 等なり。第一乃至第四游泳肢 First-Fourth swim feet は大に二科と異なれり、即 Oncaeidae に於ては此等游泳肢の内兩葉は皆三節より成り、Corycaidae に於ては或種の第四游泳肢の内葉は退化すれ共本屬にては此退化は反て外葉に起れり、故に退化が内葉に於て起れると外葉に於て起れるとに於て本屬は大に Corycaidae 中の Corycaeus 等とは異なれ共、同科中にては Sapphirina の如きは第四游泳肢は各葉共に三節より成れるが故に Oncaeidae 中の諸屬と共に比較的本屬に近きものなり。又第五胸肢 Fifth foot は Oncaeidae に於ては Lubbockia, Corycaidae に於ては Sapphirina 等の外は兩科の諸屬に於て著しく退化す、

然れども以上の二屬中比較的本屬に近きは Sapphirina なりとす。又 Eruca は Oncaeidae にては六本の刺を有し且つ一の側刺 Lateral seta を有するが故、四本の刺を有して側刺を有せざる本屬とは大に異なれり、然るに Corycaidae にては又刺は四本乃至六本なるが故刺の數に於ては本屬と適合す、加之又刺の最内刺 Innermost Spine の長き事及四肢の擴散せるものある等の點に於て本屬は能く Corycaidae 中の屬に類似せるを見る。

以上を要するに本屬の Oncaeidae に近きは目、體節及體形並に第一乃至第四の游泳肢にして、Corycaidae に近きは第二觸角、下顎、又肢等なりとす、故に結局體の概形は Oncaeidae に似たる構造を有し、附屬肢は Corycaidae に似たる構造を有す、然るに Oncaeidae と Corycaidae との重要な差異は實に水晶體ある目を有する否との點、及體節の異なる點にありとす、故に本屬は二科の中間 Oncaeidae に最も近縁を有するを知る。

本屬と「オンケア」科及「コリアス」科との關係は略右に記せるが如きも、次に述べんとする如く本屬は「オンケア」科の性質に適合せざる點を有す。然れ共其の差は新に一科を設く可き程大なるものにも非ざるが故從來の「オンケア」科の記載を修正し其中に屬せしむる事とせり。

「オンケア」科 Fam. Oncaeidae の修正

從來記載せられたる「オンケア」科の性質は左の如し。

(編 註) 「オンケア」科 Fam. Oncaeidae の修正と該科の新屬三種に就て (小久保)

「オンケア」科 Fam. Oncaeidae

キチン質のレンズを有する一對の目を有せず、雌は體形一般の「ミクロナ」型に酷似す、Pachysoma にては前體部は脹れて洋梨形を爲し、Lubbockia にては體は紡錘形に延長す、前體部及後體部は多くは五節なり即ち頭は通常第一胸節より分たれ (Rulania を例外とす)、生殖部 Genital segment と四肢との間に多くは三個の體節を有す、(Pachysoma にては二節) 又肢は各枝に六個の刺を有す、第一觸角は四節乃至六節より成り時としてはよく發達せる Asthetasken を有す、第二觸角は三節乃至四節より成り先端の刺は多くは略同長同大なり、(Rulania を例外とす) 上顎は退化し常に統一せる形を有せず、下顎は刺毛を有する小片盤にして多くは裂目を有して二個の細糸となり稀に (Rulania) 二節より成る、前顎脚は二節より成り、後顎脚は四節より成り稀に (Pachysoma) 三節より成りて末端に強き鉤を有す、第一乃至第四游泳肢は三節より成る枝を有し其刺毛は一般に前方のものより後方のものに至るに従て縮小す、第四脚の内葉は外葉より長きか又は少しく短し、雄の特徴は腹部及第二顎脚の構造にして第一觸角又は稀に第二觸角或は口の部分を特徴とする事あり。(Fauna und Flora des Golfes von Neapel. Pelagische Copepoden von Dr. WILHELM GIESBRECHT)

「オンケア」科は Oncaez, Lubbockia, Comaen, Pachy-

(論 註) O. ナンケア科 Fam. Oncaeidae の修正と該科の新種三新種に就て (小久保)

sonia, Pataunia 等の五属を含む、然れども今余の發見せる種類を「屬」として此科中に編入せんとするには次の諸點に就き科の記載を修正せざるべからず。

- (一) 又肢の刺毛の數
- (二) 第二觸角の末端の刺の形
- (三) 第一顎脚の節數
- (四) 第二觸脚の節數
- (五) 第四游泳肢の外葉の節數

(一) 又肢の刺毛の數は従來 Oncaeidae に屬するものは皆各肢に六個を有するものとせられし、余が新屬にては各肢は四個の刺を有するのみなる故之を Oncaeidae 中に編入するには此點を改むるを要す。

(二) 第二觸角末端の刺の形は Oncaeidae のものの第二觸角は皆末端に數個の同形にして略同大なる刺を有するも、余が新屬のものは唯末端に一個の大なる刺を有するのみなり、故に本屬を此科に編入するには此點を改むるを要す。

(三) 第一顎脚の節數は Oncaeidae に於ては皆二節より成れるも、予が新屬のものは皆唯一節より成る故に此點を改むるを要す。

(四) 第二觸脚の節數は Oncaeidae に於ては多くは四節より成り、稀に Pachysoma 三節より成ると稱せらるるも、余が新屬にては Pachysoma と同じく三節より成るが故三節より成る場合を稀と稱するを得ず、故に此點を改むるを要す。

(五) 第四游泳肢外葉の節數は Oncaeidae にては三節より成れ共、余が新屬に於ては第四游泳肢の外葉は二節より成れり、故に此點を改むるを要す。  
以上の五點を修正して「ナンケア科」Fam. Oncaeidae の記載を左の如くす。

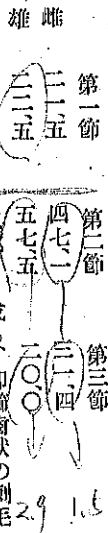
「ナンケア科」Fam. Oncaeidae

キチン質のレンズを有する一對の目を有せず、雌は體形一般の「シクロプス」型に酷似す。Pachysoma にては前體部は眼れて洋梨形を爲し、Lubbockia にては體は紡錘形に延長す、前體部及後體部は多くは五節なり即ち頭は通常第一胸節より分たれ (Pataunia を例外とす)、生殖節も又肢との間に多くは三個の節を有す (Pachysoma にては二節)、又肢は各肢に多くは六個時として四個の刺を有す、第一觸角は四節乃至六節より成り時としてよく發達せる Aesthetascan を有す、第二觸角は三節乃至四節より成り末端の附屬物は多くは略は同長同大の刺にして (Pataunia を例外とす) 稀に唯一個の大なる棘なる事あり上顎は退化して常に統一せる形を有せず、下顎は刺毛を有する小片盤にして多くは裂目を有して二個の細条 (Lobe) となり稀に (Pataunia) 二節より成る、前顎脚は一節又は二節より成る、後顎脚は三節又は四節より成りて末端に強き鉤を有す、第一乃至第四游泳肢は多くは内外兩葉共に三節より成れ共、第四游泳肢の外葉は時として

面にあり、第二觸角は細長なり、第二顎脚の末端の附屬物は眞直なり。

Limnoscia genitura n. sp.

體形「シクロプス」に酷似す、體の幅は頭部の後方に於て最も廣し、第一觸角は第二觸角よりも小にして一節より成り、其第二節は最も長く第一節及第三節之に亞ぎ其長さは共に殆んど相等しく、第四節第五節第六節等は短くして其長さ皆略ば相等し、第四節は其末端の内縁に一本の甚しく長き刺を有す、第二觸角は三節より成り第一節最も短く末節之に亞ぎ中間節最も長く、内縁の先方三分の二の所に微小なる一個の棘を有す、雌雄によりて形を異にし雄にては細長にして第一節の内方末端より一の刺を生ず、雌にては第二觸角は長大にして末節は雄に比して頗る長し、其各節の長さの比は次の如し。



上顎は稍や葉狀にして三部より成る、即櫛齒狀の刺毛を列生する二部と其根本より出づる鱗片狀の部分とより成る、下顎は甚しく退化し扁平微小にして一節より成り其末端の一部より二本の強棘と、他の一部に一個の短小なる棘とを有し上顎と第一顎脚との間に二本の棘のみを外部に表はして存在す、第二顎脚は一節より成り棒狀に

二節より成る事あり (Limnoscia) 其刺毛は一般に前方より後方に縮小す、第四游泳肢の内葉は外葉より長きか又は少しく短し、雄の特徴は腹部及第二顎脚の構造にして第一觸角又は稀に第二觸角或は口の部分を特徴とすることあり。

「リムノオンケア」屬 Limnoscia n. s.

體形「シクロプス」(Chalops) に以たり、眼は單一にして前體部に雌雄共に五節より成り、後體部は雌は五節雄は六節より成る、又刺は四個の刺を有し側刺 (Lateral) 刺なし、第一觸角は雌雄共に同形にして六節より成り Aesthetascan を有せず、第二觸角は大にして三節より成り末端には大なる鉤狀の棘あり、雌雄其形を異にし雌にては雄に於けるよりも酷だ太く且つ其基節頗る短し、上顎は小にして稍や葉狀を呈し三個の櫛狀の部分有す、下顎は甚しく退化し極めて小にして一節より成る、第一顎脚は棒狀を爲して一節より成り曲がりて多くの小棘を密生す、第二顎脚は大にして三節より成り、末端には長き棘ありて雌雄其形を異にす、第一乃至第三游泳肢は内外兩葉共に三節より成り、第四游泳肢は内葉は三節外葉は二節より成る、第五胸肢は退化し雌雄形を異にす。

雌は生殖節と肛門との間に二個の節あり、生殖孔は背面にあり、第二觸角は大なり、第二顎脚の末端の附屬物は爪狀に曲れり。

雄は生殖節と肛門との間に三個の節あり、生殖孔は腹

(講 註) O. ナンケア科 Fam. Oncaeidae の修正と該科の新種三新種に就て (小久保)

して其表面に多くの小棘を密生し、根茎に近く一本の羽状棘を有す。第二頸脚は三節より成り其第二節は最も長く末端の内縁に小棘を有す、其形は雌に依りて異なり雌にては太くして第二節の末端内縁の棘は雄よりも太く第三節の末端よりは曲れる大棘を有す、雄にては細長にして其第二節の末端内縁の小棘は細小なり、第三節末端の附屬物は真直なり、第一乃至第三游泳肢は内外兩葉共に三節より成れ共、第四脚は内葉三節にて外葉は二節なり、各游泳肢の外葉の末節は皆甚だ短くして長さは幅の二分の一より短き事あり、今游泳肢の各節の附屬物を表にしてあらはす時は次の如し。

肢	外		葉		葉		葉	
	外	内	外	内	外	内	外	内
第一節	棘	棘	棘	棘	棘	棘	棘	棘
第二節	棘	棘	棘	棘	棘	棘	棘	棘
第三節	棘	棘	棘	棘	棘	棘	棘	棘
第四節	棘	棘	棘	棘	棘	棘	棘	棘

般脚類の如く冬期にかけて漸次減少す、水面に出現するは夜間なれ共晝間にても採集し得る事あり。

*Limnorea* sp. 雄は第一頸脚四節より成り其第一節は長くして他の三節を合したる長さに等し、第二頸脚及其他の口器はよく前種に似たるも、游泳肢は第一對より第三對までは内外兩葉共に二節より成れ共、第四對は外葉一節より成る、第五胸肢は雌雄共に發達せず、唯にては前種と異なるは唯形の小さな事のみなれ共、雄にては末端の二本の刺の中小なる方を缺く、又肢の最内方の刺は又刺の末端を少しく離るゝや分岐して二本となり、其外方のものは内方のものより長くなれり、此分岐點は時として異常の節を形成する事あり。

右に依りて見るに本種の最も著しき點は又肢の最内刺の分岐せる事なり、其他の附屬物亦前種と異なる點多しと雖も、其形態より見る時は未熟のものなる事明かにして、第一頸脚及游泳肢に於て殊に然りとす、即ち第一頸脚は此後の脱皮によりて漸次節數を増し、游泳肢は第一對より第三對までの兩葉共二節より成るものは此後の脱皮によりて皆三節と成り、第四對は一節より成りし外葉は二節と成り、二節なりし内葉は三節となる可きは疑を容れず、又第五胸肢の如きも雄に於て末端に小棘を缺くもの此後の發達によりて生ずるものと推するを得可し、

(論) 雌) O. オナツヤ科 Fam. Onasidae の修正と該科の新屬三種に就て (小久保)

第五胸肢は退化して一節より成り、末端に二個根本に一個の附屬物を有すれ共雌雄に依り大に其形狀を異にし雌にては能く發達し根本より一本の刺毛と末端より二本の刺毛とを生ず、雄にては小にして根本よりは雌と同じく一個の刺毛を生ずるも、末端の附屬物の中内方のものは甚だしく退化して一の小棘となれり、雌の生殖節は次の三節を合したる長さよりも長く且つ第三腹節までは皆其腹面の後縁に鋸齒を備ふ、雄の生殖節は次の四節を合したる長さよりも長く且つ腹面には内方に向ふ二本の長刺を有す、又第四腹節までは皆腹面の後縁に棘列を有す、最後の腹節は雌雄の何れに於ても甚だ短く其腹面の後縁の棘列は、又肢は其長さ幅の一、二倍にして四本の刺を有し最内方のもの太くして最も長く體長の二分の一を超え、兩者の長さの比は 10:5 となり中央刺の外方のもの長さ前者に亞ぎ、最外方のもの其次位にあり、中央刺の内方のもの最も短し、但し最外方のものは移動して腹面に至り中央刺の外方のものの直下に來れり。

體長 雌 O. 八耗 雄 O. 七五耗

本種の雌に於ける第二頸脚は札幌村産の標本にのみ發見する事を得て震浦産の標本につきては發見する事能はざりき。本種は早春の頃より出現し始め六七月頃全盛に達して繁殖し、八九月に至りても尚存在すれ共少くなく之より一

然る時は游泳肢其他の點に於ては非常に前種に酷似せるものなるを知る、唯又肢の最内刺のみは此後の脱皮によりて前種の又刺と同形となる如き甚しき變化を見るものと思惟するを得ず、加之體長が既に雄に於て O. 七五耗に達して前種と同様になれる等の點より見れば、本種が完全に發達せし後と雖も全く前種に一致するものと思惟する事能はず、故に余は暫く本種を疑問の種とし、詳細の點は今後の研究を待ちて報する事とせり。

*Limnorea tinctoria* n. sp.

體形は前種に酷似す、第一頸角は第二頸角よりも小にして五節より成り第一節最も長し、第二頸角は三節より成り雌雄に據りて其形を異にし雌にては第三節最も短く、第一節之に亞ぎ第二節最も長し、第三節は末端に大く二個の鉤狀の棘を生ず、雄にては細長にして第三節最も短くして末端に一個の鉤狀の棘を有し、第一節之に亞ぎ内方末端よりは一の小棘毛を生ず、第二節は最も長く其内縁二分の一よりも稍や末端に近く一個の微小なる棘を生ず、雌の第二頸角の著しく異なるは、雄にては末端の棘一個なるに雌にては二個を有する點にありとす、又其各節の長さも雌雄によりて異なるなり。

第一節 第二節 第三節  
雌 一六四 六八一 一五五  
雄 四一二 四三二 二五七

(論) 雌) O. オナツヤ科 Fam. Onasidae の修正と該科の新屬三種に就て (小久保)

(論) (説) O'オングア科 Fam. Oncaeidae の修正と該科の一新属三新種に就て (小久保)

上顎は形状殆んど前種に等しきも、縮状の各部は前種の如き細刺毛を有せずして鋸齒状を爲す。前種の鱗片状の部分に相當する部分は、甚しく退化して僅に其痕跡を止むるのみとなり、下顎は前種と同じく扁平にして微小なり、其末端には一個の小棘と二本の刺毛とを有す、第一顎脚も亦殆んど前種に等し、第二顎脚は雄に於ては三節より成り概形は前種と同じなれ共末端の附屬物は何種に比して短し、第一乃至第三の游泳肢は内外葉共に三本より成り第四肢の外葉のみ二節より成る事亦前種と同様なり、第五胸肢は一節より成り其根基より一本の刺毛を生じ末端には唯一本の刺毛を有す、雌雄の差は前種の如く著しからず、腹部は雌にては生殖節は次の三節を合したるものよりも長く、腹面に數列の小棘を有す、又各節後面後縁の棘列は著しからず、雄は生殖節は次の四節を合したる長さよりも長く、腹面に於て内方に向ふ二本の長き刺毛を有す、各節後面後縁の鋸齒は著しからず、最後の腹節は腹面の後縁に刺外なし、又肢は其長さ幅の一、二倍にして四本の刺を有し其長さは概ね前種と同様なり。

體長 雌 ○、五五耗  
雄 ○、五七耗

本種は大正二年七月二日北海道釧路國釧路郡春採湖に於て採集せる浮游生物中に初めて發見せるものなり。

*Ichnoneura divergens* n. sp.

體形よく前二種に酷似して體の幅は頭部の後縁に於て最も廣し、第一觸角は五節より成り第一節最も長く末節最も短し、第三節及第四節は内縁に各一本づゝの長き刺毛を有す、第二觸角は三節より成り其形よく前種に類似し第一節比較的長し。

第一節 第二節 第三節  
雌 三三、九 四二、四 一三、七

上顎は殆んど前種と異なる事なく鱗片状の部分は前種と同じく甚しく退化す、下顎及第二顎脚は殆んど前種と異なる事なし、第一乃至第二游泳肢も亦前種に同じ、雄の第五胸肢は二節より成り末節は先端より一本の刺毛を有し、基節は外方に一本の刺毛を有す、雄の生殖節は次の四節を合したる長さよりも長く腹面には内方に向ふ二本の長き刺毛を有す、肛門節は縦に二個に分れて又肢に接続す、又肢は著しく外方に向て擴散し約九十度の角を爲す、長さは幅の一、二倍なり、其各枝の刺毛の長さは前種と同様なり。

體長 雌 ○、四五耗  
雄 ○、四五耗

本種の最も著しく他種と異なるは又肢にして前二種に於ては、又肢は必づ兩枝平行し毫も擴散する事なきに、本種にては兩枝甚しく外方に擴散して約九十度の角を示す事前述の如し、第五胸肢亦前二種に於ては唯一節より成りしに反し本種にては二節より成れり、其他の精細の

點に至りては第一第二觸角等に於ても皆多少の差異あり、未だ雌を發見せず。  
本種は前種と同じく北海道釧路國釧路郡春採湖に於て前種と同時に發見せしものなり。

第二十六卷第七版說明

一、	雌の背面圖	百五倍
二、	雌の側面圖	百五倍
三、	雌の第一觸角	三百八十倍
四、	雌の第二觸角	二百二十倍
五、	雌の第三觸角	二百五十倍
六、	雌の上顎	七百倍
七、	雌の下顎	八百倍
八、	雌の第一顎脚	五百二十倍
九、	雌の第二顎脚	四百三十倍
十、	雌の第一游泳肢	三百八十倍
十一、	雌の第二游泳肢	三百八十倍
十二、	雌の第三游泳肢	三百八十倍
十三、	雌の第三游泳肢	三百八十倍

十四、	雌の第四游泳肢	三百八十倍
十五、	雌の第五胸肢	三百八十倍
十六、	雌の第五胸肢	三百八十倍
十七、	雌の後體部の背面圖	百二十七倍
十八、	雌の後體部の背面圖	二百七十五倍
十九、	精細	三百八十倍
二十、	雌の又肢	三百八十倍
二十一、	雌の又肢	四百八十倍
二十二、	雌の第一觸角	四百三十倍
二十三、	雌の第二觸角	四百三十倍
二十四、	雌の第三觸角	四百八十倍
二十五、	雌の上顎	九百八十倍
二十六、	雌の第二顎脚	三百八十倍
二十七、	雌の第五胸肢	四百八十倍
二十八、	雌の第五胸肢	四百八十倍
二十九、	雌の背面圖	百三十三倍
三十、	雌の第一觸角	三百八十倍
三十一、	雌の第二觸角	六百倍
三十二、	雌の第五胸肢	八百四十倍
三十三、	雌の後體部の背面圖	三百八十倍

(論) (説) O'オングア科 Fam. Oncaeidae の修正と該科の一新属三新種に就て (小久保)

